

今年も大勢の観客に囲まれて

『鬼来迎』 熱演

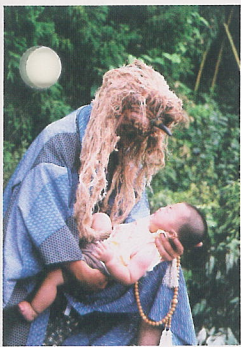
小さな小さな里「虫生」の地に伝わる大変珍しい仏教劇『鬼来迎』。古くはさかのぼること鎌倉時代、この800年もの長きにわたりわずか30軒足らずの地元民の手によって、大切に守り伝えられ続けてきました。

今年も地獄の釜が開くといわれる8月16日、午後4時から第一幕「大序」がスタート。閻魔大王、俱生神、鬼婆、黒鬼、赤鬼が次々登場すると、観客の心は地獄の世界！続く「賽の河原」「釜入れ」「死出の山」の三幕では、鬼に責め立てられる亡者とそれを救う観音菩薩の悠々たる姿に魅了されました。

連日の猛暑にもかかわらず、県内外から多くの観客が訪れカメラを片手に「水戸を朝5時に出発してきた。」「町内に住んでいるので一度は見たかった。」という方など、約1時間の熱演に場内は大観衆でうめつくされました。

鬼来迎とは

南条地区虫生にある広濟寺の境内で、毎年「施餓鬼会」の後に地元民の手によって演じられ、その起源は800年前の鎌倉時代にまでさかのぼるといわれています。「因果応報」「勧善懲悪」の理法を説く全国唯一の古典的地獄劇です。



虫封じ



亡者を救う観音菩薩



釜入れ



賽の河原

